

告示	番号	17	血液疾患
	疾病名	血小板減少症（脾機能亢進症によるものに限る。）	

血小板減少症（脾機能亢進症によるものに限る。）

けっしょうばんげんしょうしょう （ひきのうこうしんしょうによるものにかぎる。）

概念・定義

脾機能亢進症は、あらゆる原因の脾腫で誘発される二次的な病態であり、血小板減少などの血球減少症を伴う。脾腫を来す疾患としては、うっ血性脾腫、感染症、骨髄増殖性およびリンパ増殖性疾患、先天性溶血性貧血、蓄積症、脾嚢胞などがある。このうち、血小板数が10万/ μ l未満の場合、脾機能亢進症による血小板減少症とする。しかし、骨髄増殖性およびリンパ増殖性疾患（白血病、悪性リンパ腫など）では、疾患自体による骨髄抑制作用による血小板減少も来すため、「脾機能亢進症による血小板減少」とすることは、慎重に判断する必要がある。

症状

脾腫を来す基礎疾患に由来する様々な症状がある。

一方、脾機能亢進症による貧血、白血球減少、血小板減少は中等度でることが多く、血球減少があっても無症状であることも多い。

治療

治療は、基礎疾患に対して行われる。重度の脾機能亢進症がない限り、脾腫自体に対する治療は必要ない。しかし脾腫が著しい場合、脾臓破裂などの危険性を考慮して、格闘技などの接触系スポーツは避けるよう指導する。

一方、血小板減少症などの脾機能亢進症がその疾患における主要症状の場合、脾摘や脾動脈塞栓術なども行われることがある。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/9_15_26.html